

# 命を守るがん知識 児童へ

## 橋本の病院 小学校で教育

橋本市岸上の医療法人南労会「紀和病院」が5月、がんに関する正しい知識や予防法を児童に教える「がん教育」を、新型コロナウイルス禍での中断を経て3年ぶりに再開した。県内ではコロナ禍による受診控えなどの影響で、がん検診の受診率が低下傾向にある。紀和病院は「こんなご時世だからこそ、親子でがんについて考え、予防の大切さを学び、かけにしてほしい」としている。(大田魁人)

「検診を定期的に受けることで早くがんを見つければ、治すことができます」「半分近くのがんは、生活習慣や食事の栄養バランスを整えることで防げます」

5月18日、紀和病院で乳がんなどの治療に携わる梅

に臨んだ。

崎山真帆さんは「がんは

村定司医師(55)が、市立高野口小学校の6年生約50人に語りかけた。児童はメモを取って聞き入ったり、グループに分かれて意見を出した。

紀和病院は2015年度から、地域貢献の一環とし

がん教育 2016年に改正されたがん対策基本法で、学校などでの実施の推進が盛り込まれた。文部科学省の18年度の全国調査によると、小学校は1万1502校(56.3%)、中学校は7919校(71.4%)、高校は3602校(63.7%)が実施。実施しなかった学校は「時間が足りない」「指導者がいない」といった理由を挙げた。



グループに分かれて、がんの予防策について意見を出し合う児童ら(橋本市高野口町)

## コロナ禍で受診率低下 「不要不急ではない」

市内の小学校でがん教育を始めた。梅村医師は「子どものうちから正しい知識を身につければ、将来のがん予防につながる。がん教育で学んだことが家庭でも話題になれば、親やきょうだいにも知識が伝わる」と意義を語る。

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、20、21年度と2年連続で開催を見送った。今年も感染は収まっていないが、紀和病院と市教委側が開催の是非を協議。がん教育の意義を踏まえ、希望する学校で再開することを決めた。市内全14校に意向を聞いたところ、12校が開催を希望。来年1月までに順次、実施する予定だ。

厚生労働省のまとめによると、20年度に市町村が実施する主な五つのがん(胃、肺、大腸、子宮頸、乳)の検診を受けた県民は計11万1866人で、前年度から3万人以上減った。新型コロナウイルスの感染を恐れて受診控えをする人が増えた影響が大きいとみられる。

県健康推進課の担当者は「コロナ禍でも検診は不要不急ではない。がんから命を守るために受けてほしい」としている。

読売新聞でも取り上げられました!

